



発行 真宗大谷派 高山教務所
 発行者 大町 慶幸
 〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
 ☎(0577)32-0776
 *毎月20日発行 50,000部
 三市一部無料配布
 印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

飛驒国の基礎を築いた 金森氏

田中 彰



（略歴）
 一九五一年、高山市丹生川町上野生まれ。佛教大学史学科卒業。著書に「高山盆地の金里制」「金森氏の歴史」などがある。飛驒の街道を研究している。

日本の戦国時代における戦いは、戦歴、時の運、誰と同盟を組むか、などの裁量によって明暗を分けている。金森長近は織田信長や秀吉、家康と共に全国の合戦場で戦い、優れた家臣団と共に勝ち残った武将であった。その経略を最大限活かして、形成したのが日本に誇る城下町高山と飛驒国である。

天正十四（一五八六）年に飛驒国主となった金森長近は、国中が乱れた戦国時代こそ町に平和を、安全を願い、城下町づくりに力を入れ、さらには領国経営の強化を目指した。

天正十六（一五八八）年に高山城の築城を開始し、十六年かけて日本にまたとない名城「高山城」を完成させ、城下町や城下町に集約される東西南北の街道を整備し、林政と鉱山開発に力を入れ、飛驒国に繁栄をもたらしたのである。

また、城と向かい合った場所には広い敷地を用意し、白川郷、中野（高山市市川町）の照蓮寺を移した。「江記」には「城の地どり」に相むかい、照蓮寺は城にそむかず、城はまた寺にさからはずして互に



まぜてけらいん（仲間に入れて）from飛驒（12/7~9） ～飛驒御坊ボランティア委員会・第6回被災地支援活動報告～

初日に立ち寄ったのは、福島県二本松市の真行寺さん。近隣のお母さん達を中心になって開催している青空市場へ、飛驒各地から心温まる想いと共に寄せられた2トントラックいっぱい新鮮野菜を届けてきました。お寺では、福島のお母さん達に懸命に生きておられるお母さん達とお話をいただきました。テレビ・新聞等のメディアでは知られない生の声。不安や悔しさを抱えつつ、絶対に子どもたちを守るんだという思いを、涙をこらえて聞かせていただきました。私たちは改めて、この現実を忘れてはならない、どこまでも寄り添っていきたく思います。



二日目は、宮城県女川町へ。女川町民野球場仮設住宅に「まぜてけらいんfrom飛驒」と題して、交流会の場を作らせてもらいました。飛驒御坊名物の「大根汁」、みたらしだんご、たこ焼き等のふるまいや、餅つき、コンサートといったイベントを開催。女川町には、震災以降通わせていただいているので顔なじみの方との交流もあり、今回も元気な顔を見せてくださいました。まだまだ復興途中で、苦難の生活をされていますが、少しでも笑い合うことのできるひとときになったのであれば嬉しいなあと、思っています。



復興に向けての、強い思いがこの絵図に表れている。詳しく見ると、当時の照蓮寺とその周辺が描いてあり、附属寺院の様子も知ることができる。照蓮寺は大きく描かれ、その門前に当時における①圓龍寺、②専念寺、③勝久寺などの附属寺院が描かれている。照蓮寺の前は畑地になっていたが、これは金森時代の武家屋敷跡である。元禄八（一六九五）年に、武家屋敷がことごとく破壊され、その跡地は畑にされ、一般の町民に払い下げられた。長い期間、建物の建築は許可されなかった。

この度、七月二十八日付で住職の任命を受けました。今回「住職の言葉」の執筆を依頼されましたが、何分にも勉強不足で、諸先輩方のようにはできませんが、自分なりの考えを述べたいと思います。初めて浄土真宗の教えに出会ったのは、大谷大学で真宗学を学び始めた時でした。

親鸞聖人の教えを学ぶ中で感じた事は、修行もしないで、親鸞聖人の教えを伝える事ができるのかということでした。皆さんもご存じのように、親鸞聖人は比叡山で、煩惱を無くす事を目指して修行する中で、煩惱具足である自分を自覚しました。しかし修行を行っていない私が、親鸞聖人のように煩惱具足の自分に気が付き、阿弥陀如来に真の救いを求めることができるのでしょうか。本来ならば、修行によって煩惱を消すことができ、修行によって煩惱を消すことができない自分に気が付かなければ、救いを求めることはできないと思っていました。しかしながら、実は、この娑婆を生き延びることが、修行を行っていることに他ならないのではないかと気付きました。

新連載 家族で語ろう

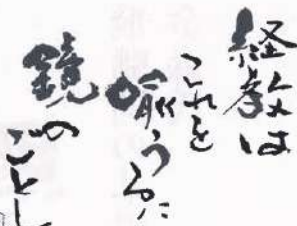
『家族で語ろう』では、酒井義一さん、藤場芳子さんに隔月で寄稿いただきます。酒井さんには自書の「法語」をひとつ挙げて、また、藤場さんには「女と男のあいさうカルタ」を題材に、私たちを取り巻く社会や私たち自身のあり方について、家族で語り合えるような話題を執筆いただきます。連載開始を前に、お二人の思いを語っていただきました。

私を照らすひかりの言葉

酒井義一



（略歴）一九五九年東京生まれ。真宗大谷派存明寺住職。同朋会館指導。青少年センタースタッフ。ハルセン病問題に関する懇談会委員。



自分のことは自分が一番よく知っている、と人は言います。しかし、それは本当でしょうか。実は人類が始まって以来今日まで、人は自分の顔すら自分の目で直接見たことがないのです。なぜなら、目は外を見るための器だからです。

自分の本当の姿を知らないもの、人間。仏さまは、そのような闇を抱える私たちを、絶えず照らし続

けています。まるで鏡のように。経教はこれを映るに鏡のごとし

しばしば読みしばしば得れば智慧を開発す

（善導大師）

教えは鏡です。教えの鏡は、私のすがたや私の心までをも、きちんと映し出してくれています。そして、その鏡を通して、新しい世界に出会い、生きていくべき存在なのだと。このたびは縁があり、私が出会ったばかりの言葉を、つたない書と共に、この紙面でご紹介させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

次号から
新コーナーが
はじまります

女と男のナムアミダブツ

藤場芳子



（略歴）一九五四年生まれ。早稲田大学第一文学部卒。中学校の教員を経て、大谷大学大学院で真宗大谷派常務寺副住職。真宗大谷派女性室スタッフ。

真宗大谷派（東本願寺）の中に、「女性室」と書かれた部屋があるのをご存知でしょうか。「男女両性で形づくられた」を願ひとして、一九九六年に設置されました。男女のいのちの重さは同じだと理屈ではわかっていても、これまでの男性

教えてくれんさい

「友引にお葬式をするのはためなんですか？」「お仏壇にあげるお花はどんなお花がいいの？」「お寺や仏事について、日頃から疑問に思っていることはありますか？」「教えてくれんさい」では、皆さんのそんな疑問にお答えします。この機会にぜひ質問をお寄せください。

飛驒の真宗 伝承散歩

飛驒の真宗にまつわる身近な伝承を紹介いたします。私たちの住む街のふだん何気なく見ていた場所や建物に新しい発見があるかもしれません。ご期待ください！

高山別院照蓮寺修正会

—お正月も飛驒御坊にお参りください—

高山別院では年の暮れ、参道両脇や階段にろうそくを灯す万灯会、年越し前から除夜の鐘つきが始まります。年が明け、午前0時から本堂にて修正会が勤められます。修正会は、一年の初めに荘厳を整え、身も心もひきしめ、仏恩報謝の思いをもって新しい年にのぞむ仏事です。ぜひ、高山別院にお参りいただき、新年の歩みを始めましょう。



万灯会	12月31日(火)	午後11時	
除夜の鐘	12月31日(火)	午後11時45分	※甘酒を用意しております
修正会	1月1日(水)	午前0時	法話 三島多聞氏
	1月2日(木)	午後1時	法話 大町慶華 輪番
	1月3日(金)	午後1時	法話 窪田哲氏

大谷婦人会
新年定例会

期日 1月11日(土)
時間 午後1時から
会場 御坊会館
法話 大町慶華 輪番

甘酒の接待があります

高山別院お煤払い奉仕のお願い

12月21日(土)午後1時からのお勤めの後、本堂のお煤払いを行います。1年の汚れを落とし、新年をお迎えします。ぜひともご奉仕をお願いいたします。
※持参品…マスク・タオル・軍手など



第32回
別院真宗公開講座

日時 1月20日(月)
午後2時~4時
講師 見義悦子氏
(富山教区)
講題 正覚寺前坊守
韋提希の「自他環路」に聞く
会場 高山別院 御坊会館
聴講費 600円

聖教学習会

日時 1月15日(水)
午後1時半~4時半
講師 安富信哉氏
(教学研究所長)
講題 「唯信鈔」講義
——法然から親鸞へ——
会場 高山別院 二階研修室
会費 無料

ご回壇案内

11日(土) 映芳寺「下之町」
18日(土) 稱讃寺「下之町」

真宗本廟(東本願寺)収骨団体参拝 参加者募集

真宗本廟収骨とは、京都東本願寺の親鸞聖人の御真影が安置される御影堂の御もとにご遺骨をお収めすることです。

期間 3月15日(土)~16日(日)【1泊2日】
日程 お斎、真宗本廟法話、収骨、阿弥陀堂御修復現場視察、大谷祖廟参拝など
宿泊 アパホテル京都駅前
定員 30名 ※定員になり次第締め切り
参加費 お一人30,000円

※収骨を行うには、相続謄金を納めることにより発行される「収骨証」が必要です。ご希望の方は、お手次のお寺までお申し込みください。詳細については教務所 ☎0577-32-0776へお問い合わせください。